

令和 3 年 4 月 2 3 日  
調布市教育委員会指導室

## 令和 2 年度 調布市教育シンポジウムの報告について

- 1 日 時 令和 3 年 3 月 6 日（土）午前 10 時から午前 11 時 30 分まで  
YouTube によるライブ配信（※ 6 日以降は、3 月 31 日まで映像配信）
- 2 場 所 調布市教育会館 3 階研修室から配信
- 3 テーマ 「調布市の子ども体力向上に向けて～新しい生活様式に取り組む中で～」
- 4 視聴者 1673 名（3 月 31 日まで）
- 5 内 容

### （1）取組紹介 調布市教育委員会 指導主事 篠原 洋平

- 東京都の「国際的なスポーツ大会を契機とした体力向上事業」の指定を受け、小学生タグラグビー大会（令和 2 年度中止）、全 2 回の中学生走り方教室（令和元・2 年度実施）、拓殖大学陸上競技部による中学校出前教室（令和 2 年度新規事業であったが緊急事態宣言のため中止）を実施してきた。
- 令和 2 年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、多くの体育的な行事が中止、又は縮小となり、児童・生徒の運動機会の確保が課題となった。次年度も東京都の体力向上事業の再指定を受け、2 年間の体力向上の取組を推進していく。
- 市立学校における怪我等の件数は、令和元年度の 49 件に対して、令和 2 年度は 1 月末現在で 59 件となっている。そのうち、骨折を伴う件数は、29 件（小：22 件、中：7 件）と増加傾向が見られた。概要としては、「転倒した際についた腕の骨折」「足をひねった骨折」など、日常生活で起こり得る事例での骨折が多く、新型コロナウイルス感染拡大防止のための休業期間や自粛期間等を過ごしてきた子どもたちの体力面・運動能力面での低下も要因として考えられる。
- シンポジウムを通して、出席者の方々や視聴者の方々にも子どもたちの体力向上や運動機会の確保という視点で考えてもらう機会としたい。

### （2）パネルディスカッション

「調布市の子ども体力向上に向けて～新しい生活様式に取り組む中で～」

<登壇者>

- 田口 康之 教授（国土舘大学）  
大森 盛一 氏（バルセロナ・アトランタオリンピック 400m・1600m 選手）、  
高田 千明 氏（東京 2020 パラリンピック大会陸上競技内定選手）  
堀籠 佳宏 氏（ゆめおり陸上クラブ代表・北京オリンピック陸上日本代表選手）  
小島 大樹 先生 調布市立第三小学校 指導教諭  
中村 万寿生先生 調布市立第七中学校 主幹教諭  
ファシリテーター：金光 淳一 調布市教育委員会経営研究室 研究員

#### 【内容】

- 様々な大会が中止となり、技能やモチベーションを維持することの困難さ
  - ・ 自宅等で練習を工夫することの大切さ、仲間で練習する大切さを実感した。
  - ・ 練習も十分にできない時期があり、モチベーションを保つことが難しいこともあったが、トレーナーや家族に支えられていることへ感謝している。
- 規則正しい生活習慣の大切さ
  - ・ 食事、睡眠など、規則正しい生活が大切である。
- 感染症対策を講じた体育指導の工夫
  - ・ ソーシャルディスタンスを確保しつつ、運動量の確保が必要である。そのためには、同時に複数のグループを動かしていく工夫が必要である。
- 東京パラリンピック大会に向けての思い

### (3) アンケート結果 (Google Formsによる)

#### 1 主な御感想・ご意見

- ① コロナ禍の中でも工夫しながら体力向上の取組を続けているということは、すごいことだと思った。コロナ禍だから仕方ないと諦めるのではなく、前を向いて進んでいく姿が強く感じられた。
- ② 授業でも、工夫次第で生徒が楽しんで体を動かすことができるということが分かった。どのような状況の中でも、工夫と意識付けを行い、生徒に主体的に取り組ませることが大切であると感じた。
- ③ 体力向上の視点から、新しい生活様式の取組に対する様々な工夫・意見を伺うことができた。
- ④ 子どもたちの体力向上に向けて、考えるきっかけになり有意義なシンポジウムでした。現在、小学校音楽専科ですが、中学生のときに、田口先生にご指導いただいたことが大変懐かしく、今回受講した。
- ⑤ 保護者としても大変興味深い内容であった。調布市の子ども達の体力向上のために、どのような取組をしているのか(タグラグビーや出前授業など)がよく分かった。子どもがタグラグビーは授業でも行っていて、とても楽しいと話している。今は、出前授業はできていないが、コロナが終息したら、様々な地域資源を活用して欲しいと思う。
- ⑥ シンポジウムは、学校の取組にももう少し時間をかけ、専門家からアドバイスをもらう形式のほうがよかったと思う。テーマが保護者の関心がないもの(正直、体力向上は各家庭の保護者の意識で決まってくる)に感じた。現在、タブレット端末が配布されて、保護者にはあまり詳しい説明のないまま宿題が出されていますが、GIGAスクールに向けた調布市の取組についてのシンポジウムであったら保護者が関心をもって視聴すると思う。今のニーズに合ったテーマにしたらよいと思う。
- ⑦ 学校公開など、コロナ禍以前にあった事業が中止となり、教育現場の取組が表面でしか届いてこなかった中、試行錯誤で様々なチャレンジをされている事が分かり、大変感謝している。パネリストの方々の実体験、また競技者としてのお考えが心に響いた。ぜひ未来を担う子供たちにも、このようなお話(講演)を聞ける機会があればと願っている。
- ⑧ 保護者に視聴を促すならば、コロナ禍の子どもへの声掛けやモチベーションの上げ方など、保護者に直接役立つテーマを希望する。
- ⑨ コロナ禍における新しい配信方法でのシンポジウムでしたが、内容的には大変示唆に富み得るところ大きいものであった。アスリートの生の声は心に残った。こうした取組は継続してほしい。
- ⑩ オンラインであると参加しやすく、とてもよい取組だった。スポーツの第一人者の話も聞けるので、もっと広報したほうがよいと思う。内容は大人向けだったので、小学生向け、中学生向けのよいうな形で、1部、2部、3部のように分けると、視聴者が増えると思う。
- ⑪ オンライン開催の有効性について、可能性を感じた。
- ⑫ コロナ禍でのパラリンピアンの実情や教育現場での模索が伝わってきた。指導者の立場にある人は皆、児童・生徒にスポーツの楽しさを味わわせ、主体性を育てようとしている、ということが分かる内容だった。時間的に厳しかったのですが、家庭における体力向上への取組など、保護者が自ら工夫できることなどにも触れて戴けると一層充実した内容になったかと思う。
- ⑬ 小学校を対象に特別講師による出張授業を行う事業など、コロナ禍でどのような活動ができるのか思い悩んでいましたが、具体的な事例を伺って、様々なヒントをいただいた。

#### 2 教育委員会としての見解

コロナ禍における児童・生徒の体力向上の取組について、感染対策を講じながらどのような取組ができるのか様々な立場の方のご意見を伺い、今後の取組の参考とすることができた。

しかし、ご意見にもあるように、シンポジウムで紹介した取組は、学校教育での内容が中心であったため、保護者の視聴者には、家庭での取組の在り方について、十分に還元できるには至らなかった。今後の内容の在り方として、学校と家庭が連携して取り組める内容を含める必要がある。

オリンピック・パラリンピック東京2020大会終了後もレガシーを引き継ぎ、体力向上の取組の充実の他、「障害者理解」「国際理解」「ボランティアマインド」の資質の育成につながる取組の充実を図ってきたい。